



Q

- [q850-cause](#) (2 ページ)
- [qsig decode](#) (4 ページ)
- [クエリ間隔](#) (5 ページ)

q850-cause

Q.850 通話切断原因コードを別の Q.850 通話切断原因コードにマッピングするには、アプリケーションマップ設定モードで **q850-cause** コマンドを使用します。コードからコードへのマッピングを無効にするには、このコマンドの **no** 形を使用します。

q850-cause コード ID **q850-cause** コード ID

いいえ **q850-cause** コード ID **q850-cause** コード ID

構文の説明

コード ID	Q.850 コール切断原因コードをマップする必要があります。範囲は 1 ～ 127 です
--------	--

コマンド デフォルト

マッピングは行われません。

コマンド モード

Application-map

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(9)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Q.850 コール切断原因コードを別の Q.850 コール切断原因コードにマッピングします。

このコマンドは、**アプリケーション** コマンドと **マップ** コマンドと組み合わせて使用します。

このコマンドは、コール制御アプリケーションによって切断された着信 H.323 コールレグに対してのみ機能します。

例

次の例では、原因コード 34 を原因コード 17 にマッピングしています。

```
Router(config)# application
Router(config-app)# map
Router(config-app-map)# q850-cause 34 q850-cause 17
```

関連コマンド

コマンド	説明
アプリケーション	ダイヤルピアで特定のアプリケーションを有効にします。
map	マッピングを有効にします。
mapq850-cause	Q.850 コール切断原因コードをトーンにマッピングします。

コマンド	説明
progress_ind	H.323 VoIP ゲートウェイからの通話セットアップ、進行状況、または接続メッセージに特定の進行状況インジケータを設定します。

qsig decode

QSIG 付加サービスのデコードを有効にするには、音声サービス設定モードで **qsigdecode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

qsigデコード
いいえqsigデコード

構文の説明

このコマンドにはキーワードも引数也没有ありません。

コマンド デフォルト

QSIG デコードが無効になっています。

コマンド モード

音声サービス構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
12.4(9)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(9)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは付加サービスのアプリケーションプロトコルデータユニット (APDU) をデコードします。このコマンドが有効ではない場合、データユニットは解釈されず、ルーター経由でトンネリングされます。

例

次の例では、QSIG デコードを有効にします。

```
Router(config)# voice service voip
Router(conf-voi-serv)# qsig decode
```

関連コマンド

コマンド	説明
supplementary-serviceh450.7	H.450.7 付加サービス機能交換をグローバルに有効にします。

クエリ間隔

ローカルのボーダー エlement (BE) が近隣の BE にクエリを行う間隔を設定するには、**クエリ-間隔コマンド** をAnnex G近隣BE設定モードで使用します。間隔を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

クエリ間隔
クエリ間隔

構文の説明

<i>query-interval</i>	この BE が指定された近隣 BE に記述子を問い合わせる頻度 (分単位)。デフォルトは 30 です。値 0 は定期的なクエリを無効にします。
-----------------------	---

コマンド デフォルト

30 分

コマンド モード

Annex G 近隣 BE の設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ローカル BE が近隣の BE にクエリを行う間隔を設定します。30 分以外のクエリ間隔が必要な場合にのみ、このコマンドを使用します。

例

次の例では、クエリ間隔を 45 分に設定します。

```
Router(config-annexg-neigh)# query-interval 45
```

関連コマンド

コマンド	説明
emulate	近隣から受信した記述子をキャッシュするように、ローカル BE を設定します。キャッシュが有効な場合、指定された間隔で近隣は記述子について照会されます。
ローカル	近隣のBEの識別子を設定します。
sessiontransport	Annex G メッセージの交換に使用される近隣のポート番号を設定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。